広告

TOP インタビュー

ねじやボルトのファスニング（締めるもの）の専門商社として、日本のもの作りを支える。

「無いネジは無い」100万種類のネジを目指す！

1 我々の使命とは…もの作りを陰で支える「社会に欠かせない存在」

「産業の塩」とも呼ばれ、建築、機械、精密機器などありゆる製造現場で必要不可欠なねじ（紙螺）。その歴史は古く、国産初のねじが誕生したのは1543年の種子島に鉄砲が伝来した翌年のことだという。鉄砲の複製を命じられた刀鍛冶が銃筒をつなぐねじ山の切り込み方がわからず頭を抱えていると、刀鍛冶の娘が身をなげうって、ポルトガルへの嫁入りと引き替えにその術を教わったと伝えられている。「それから450年以上にもわたり、ねじは我々の暮らしに欠かせない存在であり続けています。身の回りの半径1メートル以内には必ずねじを使ったものがあると言われているのです」そう語るのは、ねじやボルトなどのファスニング商品を専門に扱う商社、サンコーインダストリー（以下、SUNCO）の奥山淑英社長。

「我々は、工業製品や生活用品など、様々な分野に使用されるねじと、その関連商品の専門商社です。ひとつの製品でも、組み立てに100種類以上のねじを使う事があります。お客様が、それらを揃えるには大変な手間と時間が掛かりますが、お客様に代わって多数の商品を揃えておき、必要なものを、必要な時に、必要な分だけ、ご提供するのが、我々の役割です。」

2 「在庫拡充と即納体制」の確立

品揃えを増やすことは卸業の基本だが、厳密な規格も名称もなく無限ともいえる品種が混在するねじに関してそれは容易なことではない。創業初期、SUNCOはこの弱点を逆手に取り、他社が手を出さない特殊品を敢えてリスクを承知で在庫化し、それを求める小口の注文に乗じて一般品をも販売する手法で業績を伸ばす。70年代初頭の石油ショックでは苦境に立つが、だぶついた在庫品にメッキ加工を施して受注を待ち、納期に通常5日は要するメッキ加工品の即納体制を築いて売上を倍増した。

品揃えと速さの追求、このワンストップショッピングがSUNCOビジネスの基本モデルである。

3 コンピュータ化と即答

「即納」はもちろん大切ですが、「即答」出来るように社員を支援することも、とても重要になります。我々のビジネスの多くが、お客様から電話を頂くことから始まります。その際、ねじの正式名称ではなく、通称で話されたり、注文の商品が明示されず、「こんな商品ある？」と照会されることもあります。これに対し、我々は、どんな場合でも電話を切らずに、その場で即答します。そうする事で、お客様からの信頼が得られます。その時に武器になるのが、コンピュータであり、キーワードをはじめ、電話での照会に即答できる独自の検索機能を設けています。しかし、それでも解決出来ないときもあり、やはり最後は、「人間力」がものをいいます。

サンコーインダストリーの IT 拠点、東大阪物流センター。膨大な商品情報をもとに、取り扱う80万種類を瞬く間に出荷する体制を築く、倉庫フロアでは出荷伝票別に商品を配列し、コンピュータが割り出した最短経路でピッキングを実施、バーコードによる工程ごとの検品で、出荷精度は限りなく100%に近い。

4 業界トップクラスの物流システム —IT技術を駆使した、

業界トップクラスの理由は他にもある。物流システムの高度IT化だ。奥山社長は言う。「商品アイテムを極限まで拡充する一方、その管理はコンピュータに任せ、人間はもっと創造的な仕事をすべきだと考えました」

その方針に沿って、82年には業界初となるIT制御立体無人倉庫を建設。80年には売上高の半分近くを扱って東大阪物流センターを完成させ、仕入・受注・ピッキング・検品・梱包の全工程でコンピュータ管理を実現した。そのバックボーンとなっているのが、データベース化された日々増殖する数十万種の商品情報である。

全ての商品がバーコードで厳密に管理されているので、急なオーダーにも即時に対応可能です。また、お客様にはウェブカタログでも同じ情報を提供し、「SUNCOと取引をしておけば、生産管理・販売管理も安心」と褒められるようになりました。今後は100万アイテムへの拡充を目指し、さらに利便性を追求していきます。

一方、社内に目を向ければ、全社員が参加するTQC活動があり、品質管理と業務改善にも万全を期する。社員が自発的に結成する委員会は20を数え、ユニフォームを選ぶ「制服委員会」まであるという。経営理念に掲げる「一致協力」の精神と、奥山社長の言う「遊んでいるように仕事をして成果を上げる」の心得を体現する業風土なのである。

5 みんなが楽しく働き業績を上げていく

「遊んでいるように仕事をし、当然のように成果を上げる」これは、私が以前から考え、理念として言い続けている言葉です。もちろん本当に遊んでいるわけではないが、「人生の約半分を占める仕事が苦痛だったら退屈。仲間と自分の足りない部分を補い合い、時間を忘れて仕事に取り組めるような、職場環境の居心地の良さを大切に」と考えています。

我社は風通しが良く、面白い会社、楽しい会社であり続けたいと思っています。そして、そうであればこそ色々なタレント性を持った人が、社員として集まってきてくれるものだと思っています。

風通しの良さは、物理的にも必要だと考えています。以前はパソコンのディスプレイに顔がかくれ周りが見渡しにくい、来客に気付きにくいという状況でした。そこで、それでは良くないということで、ディスプレイの位置を見直したり、パーテーションで部屋を区切らない、など様々な改善、気配りをしています。仕事のみならず、会社が社員に居場所を提供することが、社員が活き活きと働けることに繋がるのではないかと考えています。

6 子育てサポート企業の証「くるみん」の取得

「くるみん」取得のきっかけは福利厚生の充実が目的、というよりも、職場は生活の場であるという考えに基づくものでした。会社は今後、多様な働き方に対応することが必要だと考え、生活環境の向上という視点で取り組み始めました。産休・育休取得率は年々増してきて、部署間での仕事の大きな違いや特異性がないため、職場復帰はスムーズに行えていると思います。また、復帰時には、職場の同僚のサポートが欠かせませんが、お互い、他人の尊厳を傷つけることがない職場が大切との考えが浸透し、そうした環境や風土が培われてきたことが、有効に機能していると思います。

7 今後の事業構想について

今後は、既存のお客様へのご対応はもちろんのこと、ねじ業界の周辺業界にも営業活動の枠を拡張し、新規顧客の開拓を積極的に進めたいと思っています。加えて、将来的には、ねじ以外の新たな生産財も取り扱いたいと考えており、「無いネジは無い」を確立し、お客様のお役に立つ企業を目指します。

サンコーインダストリー株式会社
代表取締役社長
奥山 淑英（よしひで）

2003年サンコーインダストリー入社。取締役として、電算部、商品企画部などの業務を担当。東京支店勤務を経て、2012年3月より現職。

SUNCO サンコーインダストリー株式会社
【 本社 】大阪府大阪市西区立売堀1-9-28 TEL：06-6539-3535
【東京支店】東京都墨田区江東橋2-3-10 5階 TEL：03-5625-5135
http://www.sunco.co.jp

サンコーインダストリー株式会社 検索

1946年木ねじ専門問屋として創業。ねじやボルトのファスニング（締めるもの）の専門商社として、日本のもの作りを支える。2001、05年関西IT活用企業百撰の最優秀賞受賞、などITを駆使した即納体制や在庫力が強み。従業員は385人。